

鷹の目の狩人

XVI

豪雪に思う歴史の走馬灯

去る2月に起きた関東豪雪、群馬では前橋気象台開設以来118年目の大雪とのこと。年齢的にはすべての人が初体験。最寄りの国道18号線は群馬から長野へ向かう幹線だが、比高数百mもある碓氷峠があり、急カーブと急坂の連続で、大雪の日を通れると思えない道である。しかし、国道18号線碓氷バイパスは関東と長野の流通の大動脈。生活物資が生産されても流通され、消費地に届かなければ目的を果たさない。通行せざるを得ない、流通業者さんに敬意を表したい。結果として、碓氷バイパスでは最大650台の車（おもにトラック）が3日も立ち往生した。

小生も雪国生活で轍を追いかけ車が亀のようになっていたりしたが、雪国では道に融雪装置があり、除雪車が早朝から活躍している。環境に生かされていたと改めて感じた。雪国でないところの豪雪、30cm位なら前輪駆動車で突破し



涼しそうですが
雪国ではありません

轍ができるが、1mもあると雪の壁とても車が通行できない。百軒以上が3日間閉じ込められた。家の前は屋根雪が落下し2mの雪壁、車の上は1mの雪、何れも雪国では見慣れた光景だが、ここは雪国ではないと実感した。4日目、道が開き早朝、渋滞する国道18号を避けて、買出しに出たが、牛乳や豆腐類は品切れ、昔のトイレトペーパー騒動を思い出した。郵便や宅急便もようやく復活した。今を時めくコンビニも流通に支えられていると実感した。

北陸在住時代も昭和56年豪雪で国道、空港、鉄道すべてが閉鎖され、陸の孤島となった。新聞用インキのタンクローリーが雪でとざされ、土壇場、ヘリで空輸する段取りの途中で開通し、無事にお届けできた。

雪国の豪雪で思い出すのは富山の佐々成政のサラサラ峠越えである。信長没後の政権争いで秀吉に対抗するべく、極寒の北アルプスを越え浜松の家康に救いを求めた。また、関東管領となった上杉謙信が群馬の三国峠を越え、関東小田原城を囲んだが、常に雪との戦いであった。北條や武田

は雪で動けない上杉方を侵略し、雪解けとともに上杉が巻き返すことを繰り返した。雪は天然の防壁であり、障害であった。

上杉武田北條の活躍を描く展示会『城絵図に見る上野の戦国時代-富原文庫所蔵図に見る城絵図の世界-』も雪国でない豪雪で準備に影響があり、開催の2週間延期を余儀なくされた。展示期間は4月19日土曜日から6月16日月曜日となった。場所は前回、『会津若松城下絵図屏風展』を開催した安中市学習の森ふるさと学習館（歴史博物館）である。

今回の展示は2010年文化財関係者限定で公開した富原文庫設立12周年『上野（群馬）動乱 絵図に見る戦国城館』展を一般公開、また、一昨年、伊那の三洋グラビアさんで開催した『長野県城絵図展』の群馬県版、さらに、安中地名発祥起原を100年以上遡る榛名神社文書石摺にある「あんなか」文字記入木部道金書状の初公開、安中市最大の遺跡安中城



武田信玄攻略 群馬 長野業政の箕輪城絵図



錦絵 瓢箪談五十四場から
佐々成政サラサラ峠越

解明のための安中城絵図13枚の初公開を企画した。関東管領山内上杉の平井城絵図、長野業政の箕輪城絵図、上杉の春日山城絵図、武田の躑躅が崎館絵図、北條の八王子城、鉢形城、松山城、織田の安土城絵図、豊臣の大坂城本丸図と多くの古城絵図と合戦錦絵を展示します。今回はいい季節です。北関東にお越しの際はぜひ、ご来場ください。